

奈良県教育委員会

教育長 矢和多忠一様

教育改革のための新たな提言

奈良県教育懇談会（以下「懇談会」という。）では、地方分権時代における奈良県にふさわしい教育の在り方を求めて、平成 12 年 9 月 1 日以来、これまで 12 回の会議を開催し、建設的かつ率直な討議を進めてきました。

教育改革が喫緊の課題であり、早急に施策化の必要性があることから、懇談会では、平成 13 年 11 月 6 日に、「家庭と就学前教育の充実に向けて」「学力向上に向けて」「学校の経営改善に向けて」「高校の特色づくりにに向けて」「県民から信頼される教員を目指して」からなる「教育改革のための中間提言」を県教育長に提出しました。

この度、「中間提言」以降の討議を踏まえて、次のとおり新たな提言をいたしますので、施策化に向けて取り組みをお願いしたいと存じます。

平成 15 年 3 月 19 日

奈良県教育懇談会

会長 杉 村 健

提言：読書活動の推進

読書活動によって、子どもは豊富な言葉を学び、豊かな表現力、想像力、集中力を身につけることができ、また、知的好奇心が刺激されて、知る喜びを味わうことができる。これらは、豊かな人間性や感性を育むことにつながり、ひいては人としての教養を培い、生涯学習の基礎となるものである。

小学生から中学生へと読書量が減少するという現状からみて、小学校低学年から読書の習慣をしっかりと身につけ、子どもが読書好きになることが大切である。

- 読書への興味・関心を喚起して活字離れを克服し、言葉の力を身につけ、表現力、想像力、集中力を培うために、すべての小・中学校で読書タイムを設定し、読書の習慣づけを行うこと。

提言：「教育の日」の設定

県民の教育に対する関心を一層高め、学校、家庭及び地域が一体となって子育てや教育に取り組むことが望ましい。

- 毎月 1 回「教育の日」を設定し、授業公開を行うとともに、県民の教育に対する関心を高める取組を行うこと。